

## 第6回日学連アゴラ

東海学生卓球連盟 理事長 中村秀樹

私は学生時代より約30年弱、東海学連の大会運営に携わっております。地元の愛知県卓球協会・名古屋市卓球協会の役員としてもいろいろなカテゴリーの運営も行っています。

どの支部学連も同様だと思われませんが、国公立や私立など大学も異なり、性格もタイプも違う学生が卓球というスポーツを通して、学連役員として集まり、大会の準備作業などを行っています。学連への入り方も様々で自主的にはいる子もいれば、強豪校の選手などは怪我をして仕方なく入る場合もあれば、部内でくじ引きをして入る学生もいる。普段は個々に関わりあうこともない大学の学生同士が試行錯誤しながら作業する姿を見るのはいつの時代も頼もしく思います。

学連の役員をすることで多くの人と出会い、社会勉強のひとつになればと願います。私自身も多くの人との関わり合い、今も理事や学生に支えられながら成長しています。選手の皆さんもひとりでは出来ないことも周りに関わる人がいるからこそ変化が来て、自分を成長させてくれると意識し心掛けていくと良いと思います。

今年度は東海学連主管でインカレを開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、過去の大会運営のように思うように出来ない事が多くありました。参加する選手や役員も制約されることや手間の掛かることがたくさんあり本当に難しい時代だと思えます。これからもコロナ対策を検討しながら大会を進めいくことが必要になります。各大会の方針や条件のなかで、大会に関わるすべての人が思いを共有し、選手も選手としてのみではなく、大会に協力し、役員の思い同様にもって成功させていくことを一員として感じて欲しいと思えます。

日本の大学卓球界がこれからも衰退することなく、伝統を継続しながらも発展し、さらに改革を進めるために微力ながら日学連・東海学連に関わっていきたいです。

早くコロナの影響を受けることなく、大声援で盛り上がるリーグ戦や全国大会が行われる日が戻って欲しいと願います。